

聖霊降臨第 13 主日礼拝説教要旨(8月31日)

『善い業のために』 エフェソの信徒への手紙 2:4-10 早川 真牧師

人間の根源的な問いとして、「自分は何のために生まれたのだろう」という問いがあります。生きている意味、と言い換えても良いですが、今朝の聖書の個所にはその問いに対する答えが示されています。それは善い業のために造られたということです。神は人間を善い業のために作られました。

しかし私たちの一番の悲しみ、そして苦しみは、善い業をしたいのにできないということではないでしょうか。人に優しくしたいのにできない、正しいことをしたいのにできない、そのような時、私たちは自分の存在自体を悲しみ、苦しむものです。

パウロは、私たちが善い業を行うことができないのは、私たちの内に住んでいる罪が原因だと告げています。しかし今朝の個所でパウロは、神はそのような罪に支配された私たちをキリストと共に生かし、復活させ、天の座につかせられたと語っています。それは恵みにより、信仰によって私たちの上に実現します。私たちの罪に支配された体がイエス・キリストと共に十字架につけられ、死んで復活し、天の王座に着いたということは、もう私たちを罪に誘うサタンの支配下にはいないということです。そして神の霊である聖霊が私たちの内に住んでくださり、この聖霊の導きによって私たちが造られた本来の目的である善い業を行って歩む者へと変えられるとされています。

私たちは、私たち一人一人に与えられた神の恵みを神が備えてくださったそれぞれの場所において現していきたいと思えます。そして私たち一人一人が皆、神の恵みを現すという善い業のために造られたことを覚えて、共に支え合い、祈り合い、励まし合って歩んでまいりたいと思えます。